

# バッハ自身によるインヴェンション(全 15 曲)の指導順序

## 補足：シンフォニア(全 15 曲)の指導順序

2015 年 4 月 14 日作成

2015 年 9 月 10 日補足

八百板正己

### I. はじめに

バッハが 15 曲のインヴェンションを作曲した直接の動機は、長男ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハの教育のためでした。9 歳を迎えたフリーデマンに対してバッハは一冊の楽譜帳を与え、自作や他作の教育用の小品群を、あるときはバッハ自身が、またあるときはフリーデマンが書き込んでいきました。この楽譜帳を「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集」といいます。15 曲のインヴェンションもこの中に含まれていて、バッハが 15 曲をどの順で与えたのかという情報が得られるほか、よく観察するとそれ以上の貴重な情報を読み取ることができるのです。

### II. バッハはインヴェンションの指導に入る前に何を指導したか

このレポートの主題であるインヴェンション 15 曲の指導順序を解説する前に、そもそもバッハはインヴェンションの前にどんな曲を弾かせていたか、という情報から見ていくことにしましょう。

バッハの長男フリーデマンが 9 歳から 12 歳ごろにかけて作られた「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集」は以下のような構成になっています。

1. 音部記号、音名の一覧表、装飾音の記号とその意味の説明
2. 単純な曲（運指練習曲、数曲の小前奏曲、数曲の舞曲、数曲のコラール）
3. 前奏曲 11 曲（後に拡大改訂して平均律クラヴィーア曲集第 1 巻に組み入れられる）
4. インヴェンション 15 曲（同曲集での呼称は「プレアンブルム」）
5. シンフォニア 15 曲（同曲集での呼称は「ファンタジア」）

驚くべきことに、インヴェンションを指導する前に、バッハはなんと平均律クラヴィーア曲集の前奏曲（拡大改訂前の短い形ではありましたが）を弾かせていたというのです。

こんにち、生徒にインヴェンション第 1 番ハ長調を学ばせる前に、平均律クラヴィーア曲集第 1 巻の前奏曲を 11 曲も弾かせる音楽指導者がいるでしょうか？ 平均律クラヴィーア曲集第 1 巻の前奏曲を 11 曲も弾けるようになるまでインヴェンションを指導せずにとっておく音楽指導者がいるでしょうか？

この問いは「どういう目的でインヴェンションを学ばせるか」という問題に行き着きます。どうやらバッハ自身は、私たちの大部分が思っているような目的（鍵盤楽器初級者に対位法楽曲の演奏経験を与える）とは違う指導目的があったと考えざるを得ませんね。

ここで注目したいのが、「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集」の数年後に作成された、インヴェンションとシンフォニア全 30 曲の自筆浄書譜です。その表紙には、この曲集の目的として以下のように書かれています。

---

## 正しい手引き

クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が (1) 2 声できれいに奏することだけでなく、さらに上達したならば (2) 3 つの主要声部を正しくそして上手に処理することを学び、それと同時にすぐれたインヴェンツィオ (= 楽想) を手に入れるだけでなく、それらを巧みに展開すること、そしてとりわけカンタービレな (= 歌うような) 奏法を習得し、それとともに作曲の予備知識を得るために。

1723 年

アンハルト＝ケーテン公の宮廷楽長  
ヨハン・ゼバスティアン・バッハ作

---

私たちの多くがインヴェンションを「2 声できれいに奏する」だけで満足していますね？ところがバッハの目的はそれにとどまらず、「すぐれた楽想とはこういうもので、それらの展開可能性を全部列挙するとこうなって、作曲とはこのようにして行うものだ」という最高の模範を示し、そのようにして作曲されたすべての声部のすべての音を、聖歌隊が対位法合唱曲を歌い交わすかのようにカンタービレに演奏できるように指導するという、とてつもなく高い目標を持った曲集なのです。こんにち「どうにか弾くことだけはできる」というレベルの初級者が挫折してしまうのも無理はありません。技術的には余裕で弾けるレベルの人が取り組んでこそ、バッハが本当に学んでほしかった真髄に迫ることができるというわけです。

もう一つ、当時の状況として認識しておくべきことがあります。バッハのもとに弟子入りして音楽を学ぼうという人ならばほぼ全員が、子供の頃には教会の聖歌隊員として対位法合唱曲の演奏に日常的に係わっていたということです。今の私たちにとって高音と低音が全く対等に歌い交わす音楽というのは馴染みがなく特殊なものという感覚ですが、当時バッハからインヴェンションを学んだ人たちにとっては当たり前のスタイル、当たり前の響きだったわけですね。

### III. バッハ自身によるインヴェンション（全 15 曲）の指導順序

さあ、いよいよこのレポートの主題である、インヴェンションの指導順序です。「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集」では 15 曲のインヴェンション（同曲集での呼称は「プレアンブルム」）が以下のような順に並んでいます。

|         |               |        |         |
|---------|---------------|--------|---------|
| プレアンブルム | ハ長調（インヴェンション  | 第 1 番  | BWV772) |
| プレアンブルム | ニ短調（インヴェンション  | 第 4 番  | BWV775) |
| プレアンブルム | ホ短調（インヴェンション  | 第 7 番  | BWV778) |
| プレアンブルム | ヘ長調（インヴェンション  | 第 8 番  | BWV779) |
| プレアンブルム | ト長調（インヴェンション  | 第 10 番 | BWV781) |
| プレアンブルム | イ短調（インヴェンション  | 第 13 番 | BWV784) |
| プレアンブルム | ロ短調（インヴェンション  | 第 15 番 | BWV786) |
| プレアンブルム | 変ロ長調（インヴェンション | 第 14 番 | BWV785) |
| プレアンブルム | イ長調（インヴェンション  | 第 12 番 | BWV783) |
| プレアンブルム | ト短調（インヴェンション  | 第 11 番 | BWV782) |
| プレアンブルム | ヘ短調（インヴェンション  | 第 9 番  | BWV780) |
| プレアンブルム | ホ長調（インヴェンション  | 第 6 番  | BWV777) |
| プレアンブルム | 変ホ長調（インヴェンション | 第 5 番  | BWV776) |
| プレアンブルム | ニ長調（インヴェンション  | 第 3 番  | BWV774) |
| プレアンブルム | ハ短調（インヴェンション  | 第 2 番  | BWV773) |

この順をみて、どんな規則性が読み取れるでしょうか？ 答はこうです。

1. 白鍵だけで主和音が弾ける調をハ長調から順に上昇していく  
ドミソ＝ハ長調、レファラ＝ニ短調、ミソシ＝ホ短調・・・例外：シレファ＃＝ロ短調
2. 残りの調を順に下降していく  
シ♭レファ＝変ロ長調、ラド＃ミ＝イ長調、ソシ♭レ＝ト短調・・・ドミ♭ソ＝ハ短調

そのつもりで見ると、15 曲の難易度がおおむねこの順に並んでいると思いませんか？ ここで言う難易度とは、指の動きが難しいということではありません。いつまでも覚えられないとか、弾いても形にならないとか、気持ちを込めにくいなどという、どう対処したらよいか答がすぐに出ない漠然とした苦手意識です。

私が思うに、その苦手意識の根源は、これらの曲が本当の意味で弾く人の心の中で消化されていないことでしょう。ハ長調はその中では一番簡単に覚えられて口ずさめるけれど、最後のハ短調はたとえ指は動いても、今この瞬間に一体何が起きているのか理解できない、そこにその音があることに納得がいかない、だから覚えられないし心を込めて弾けない。そういう観点で次の項をお読み下さい。

## IV. 分かりやすい曲から難解な曲へ

まず、はじめの6曲は主題（インヴェンションの自筆浄書譜の表紙でいうところの「楽想」）が短いです。最初の3曲（ハ長調、ニ短調、ホ短調）は順次進行を主体とした主題で、主題をカンタービレに弾くのもそれを聴き取るのも比較的容易といえます。次の3曲（ヘ長調、ト長調、イ短調）は跳躍進行を主体とした主題で、そのことだけでも少しハードルが高くなるでしょう。

ロ短調から先は主題が長くなります。主題が長いということは、低音が主題を奏する長い時間にわたって低音らしい支えを全くできなくなりますから、いわゆる聴きやすい（＝理解しやすい、覚えやすい）音楽から離れることを意味します。（ちなみに、同じバッハでもカンタータや協奏曲などでは、フーガであっても主題と直接関係のない「支えとしての低音」が曲全体を聴きやすくまとめています。インヴェンションでのこの聴きにくさは意図的なものです。）

そして最後のハ短調が数学的な秩序を追求した「カノン」です。最も作曲が難しく、しかし当時の宇宙観を反映して最も神聖な音楽とされたカノンは、当時の人々にとっても近寄りがたい存在だったことでしょう。神が定めた数の神秘に従って広大な宇宙を星たちが整然と巡る、そんな光景を思い浮かべながら弾くことで心が日常を離れて浄化されていく。カノンを演奏することの意味とはそういうことです。

## V. こんにちの学習にどう生かすか

これほどまでに高い教育目的を持って作られたインヴェンションを、こんにちのピアノ学習にどう生かしていったらよいのでしょうか？ そんな大きな問題に簡単に答えられるものではありませんが、一つ確実に言えることはこうでしょう。

**インヴェンションは、初級者のころに一度学んで終わりにしてよいものではなく、その後何度でも、生涯にわたって学び続けるべき内容に満ちた傑作である**

人生の折々にこの曲集に立ち返るたびに自分の確かな成長を確認できる曲集ともいえるでしょう。裏を返せば、久しぶりにインヴェンションを弾いてみたのに新しい発見が何もなかったなら、その間自分の音楽的成長が止まっていたことの証だとも言えるかもしれませんね。私ですか？ もちろん何度でも何度でも生涯にわたって弾き続けます。弾かずにはられません。

## VI. (補足) バッハ自身によるシンフォニア (全 15 曲) の指導順序

「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集」では 15 曲のシンフォニア (同曲集での呼称は「ファンタジア」) は以下のような順に並んでいます。

|        |      |         |        |         |
|--------|------|---------|--------|---------|
| ファンタジア | ハ長調  | (シンフォニア | 第 1 番  | BWV787) |
| ファンタジア | ニ短調  | (シンフォニア | 第 4 番  | BWV790) |
| ファンタジア | ホ短調  | (シンフォニア | 第 7 番  | BWV793) |
| ファンタジア | ヘ長調  | (シンフォニア | 第 8 番  | BWV794) |
| ファンタジア | ト長調  | (シンフォニア | 第 10 番 | BWV796) |
| ファンタジア | イ短調  | (シンフォニア | 第 13 番 | BWV799) |
| ファンタジア | ロ短調  | (シンフォニア | 第 15 番 | BWV801) |
| ファンタジア | 変ロ長調 | (シンフォニア | 第 14 番 | BWV800) |
| ファンタジア | イ長調  | (シンフォニア | 第 12 番 | BWV798) |
| ファンタジア | ト短調  | (シンフォニア | 第 11 番 | BWV797) |
| ファンタジア | ヘ短調  | (シンフォニア | 第 9 番  | BWV795) |
| ファンタジア | ホ長調  | (シンフォニア | 第 6 番  | BWV792) |
| ファンタジア | 変ホ長調 | (シンフォニア | 第 5 番  | BWV791) |
| ファンタジア | ニ長調  | (シンフォニア | 第 3 番  | BWV789) |
| ファンタジア | ハ短調  | (シンフォニア | 第 2 番  | BWV788) |

配列の規則はインヴェンションの場合と同じです。

1. 白鍵だけで主和音が弾ける調をハ長調から順に上昇していく  
ドミソ=ハ長調、レファラ=ニ短調、ミソシ=ホ短調・・・例外：シレファ#=ロ短調
2. 残りの調を順に下降していく  
シ♭レファ=変ロ長調、ラド#ミ=イ長調、ソシ♭レ=ト短調・・・ドミ♭ソ=ハ短調

曲の難易度に関しては、インヴェンションの場合ほどには配列順との関係は少ないと私は感じています。もしかすると、長男フリーデマンはインヴェンション 15 曲を学ぶ間にかなり高いレベルに到達してしまって、シンフォニアを与える際に曲の難易度を考慮する必要が無かったのかもしれないですね。

以上